

令和4年度

# 所信表明演述

岩手町

令和4年第2回岩手町議会定例会の開催に際し、今後4年間の町政運営についての所信を申し上げる機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

私は平成30年6月1日に町長に就任以来、町議会議員の皆様並びに町民の皆様、そして関係各位のご指導とご協力をいただき、これまで1期4年間、町政を担わせていただくことができました。すべての皆様に心より厚く御礼申し上げます。

特に任期の半分以上は、新型コロナウイルス感染症拡大防止、あるいは経済対策等への対応に追われるという未曾有の状況の中での町政運営であったことは特筆すべきことであります。新型コロナウイルスの収束が見通せない状況の中で、町政の推進に種々ご尽力いただいている皆様に深く感謝を申し上げます。

そして、この度、私は先般執行されました岩手町長選挙におきまして無投票での当選となり、引き続き2期目の町政を担わせていただくこととなりました。ご支援賜りました皆様に感謝申し上げますと共に、議員各位並び

に町民の皆様のご理解とご協力を賜りながら、より良い岩手町の未来のために、そして持続可能な岩手町ならではのまちづくりの実現のために、勇気をもって粉骨砕身、働かせていただく覚悟でございますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

それでは、今後4年間の町政に関する所信を述べさせていただきます。

先ず、世界情勢を見ますと、絶えない軍事衝突や地域紛争、新たな感染症のまん延、これらに影響を受けての企業活動の停滞、食料や飼料、資材価格高騰など、政治、産業、経済を取り巻く大きな問題が噴出し、今、実に混沌とした様相を呈しております。

一方、私たちの日本の地方の町では、少子化、人口減少、エネルギー問題、コロナ禍による疲弊した地域経済や産業の振興など様々な課題が山積しています。

また、国全体で進めている脱炭素の動きに、そしてIOTやICTの先に行くDX（デジタルトランスフォー

メーション)にも自治体としても取り組んで行かなければなりません。

私は、これらの課題にしっかり正面から向き合い、取り組んでまいります。

時代は本当に急速に変化しております。

ここ数年、「グローバル」という言葉をよく耳にします。世界規模という意味の「グローバル」と地元、地方という意味の「ローカル」を掛け合わせた日本の造語で、企業活動で重視されている視点のことです。

地域経済も地方自治体経営も世界と直結していると言っても過言ではない今日、「グローバル」という二極的、二元的な視点を身に付け、本町の“まちづくり”のよすがとすべきではないかと考えるものであります。

一昨年、本町はSDGs未来都市に選定され、令和3年度からスタートした岩手町総合計画には世界共通言語というべきSDGsを取り込みました。

そして、本年度の施政方針におきましては「地元学」の振興を明記させていただいたところでもあります。本町

の特徴である3つの文化、則ち「農業」「スポーツ」「アート」、これらの分野での世界規模な視点での事業の取り組み、人材の輩出等を目指すと共に、地元にあるものを知り、探究し、磨きをかけ付加価値を高めて行くという取り組みを併せながら、本町の持続可能性を追求して参ります。

ここで、今回の選挙に際し、私が掲げた5つの公約について述べさせていただきます。

- 1 町の基幹産業である農林畜産業のさらなる振興
- 2 「地元学」の振興と教育・人材育成
- 3 将来に向けた地域医療・在宅医療の体制づくり
- 4 若者や子育て世代に選ばれる町を目指すこと
- 5 フューチャーセンターの整備と経営

これらの公約はそれぞれが有機的に結びついているものであります。続けて申し上げるなら、「農林畜産業を

中心とした産業振興と教育・人材育成を進め、「稼ぐまち」の仕組みづくりを具体化し、併せて医療の確保・充実を図り、若者や子育て世代に選ばれる町を目指す」ということでもあります。

この中の「稼ぐまち」は、私のまちづくりに対する大きなビジョンの根底をなす考え方であります。

私の考える「まちづくり」の究極の目標は、地域経済の豊かな循環と所得向上、そして町民福祉の向上です。経営的な感覚で施策を推進し、投資とも言うべき施策と、利益、則ち潤いを生み出す「稼ぐまち」の仕組みづくりにこれからも挑戦し続けて参りたいと存じます。

そして、私のビジョンのもう一つの大きな柱が人材育成、教育であります。

古来より「まちづくりはひとづくり」と言われてきました。人材育成や教育に力を入れ、多様な人材が育つまちづくりを推進することは、次世代に受け継がれる力強いまちにつながるものと確信しているところであります。

これまで私の町政に対するビジョンを申し上げ、今回の選挙に際し掲げた公約について申し述べましたが、2期目となるこの4年間でさらに一つの大きな目標を立てました。

それは、「岩手町を“世界の岩手町”にする」ということでもあります。

グローバルな高い目標を掲げることで、現在実施中の岩手町総合計画の理念がより一層際立ち、SDGs未来都市計画の発展的展開がより現実的になるものと考えます。

今後、国内外のまちとの交流が盛んになって行きます。日本中、世界中から注目され、他のモデルとなる町を目指すことが、「若者に選ばれる町」の大きな要因の一つとなり、まちの持続可能性が向上して行く、というのが私の大きなビジョンであります。

以上、町政2期目における私の所信の一端を申し述べさせていただきます。

総合計画に掲げた将来像「わたしたちが創る 笑顔がいっぱい いわてまち」の実現に向け、町民が一体となるよう和をもって臨み、対話の手法を用いながらまちづくりに邁進する所存であります。

何とぞ議員各位並びに町民の皆様方には、一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げ、新たな任期に当たったの所信表明とさせていただきます。

令和4年6月14日

岩手町長 佐々木 光 司